

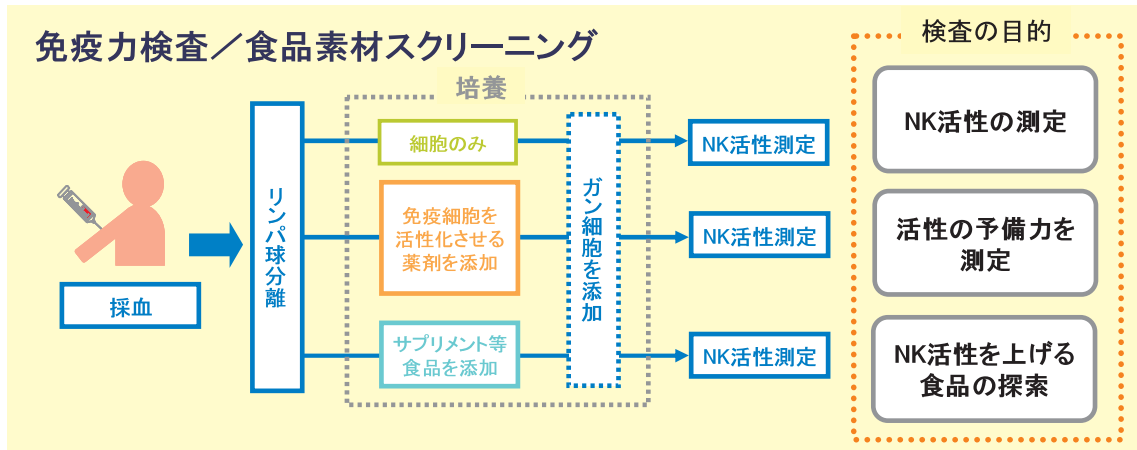
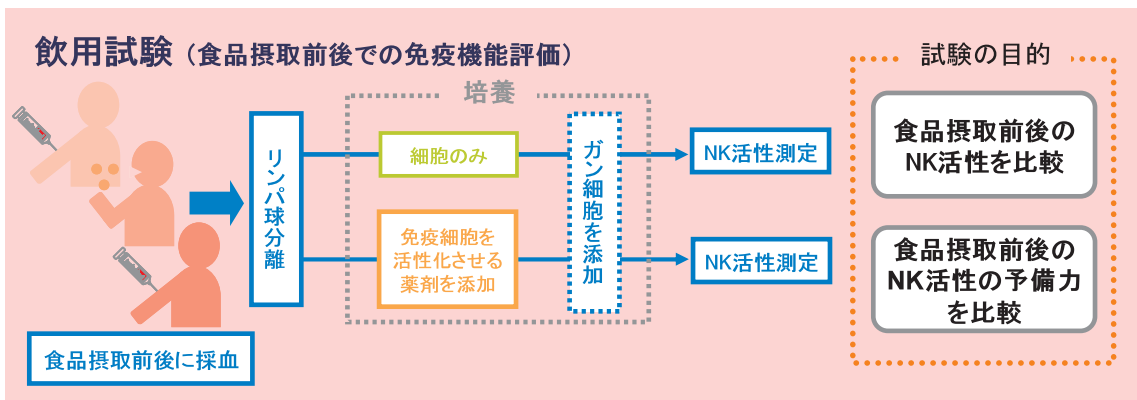
# ORIC NEWS

# 翔飛

ひしように

入居企業紹介

## 食品の臨床試験受託サービス



NK活性：ナチュラルキラー（NK）細胞がガン細胞を攻撃する強さを「NK活性」といい、免疫力の指標の1つとされています。

免疫分析研究センター株式会社

詳細は7ページをご覧ください

### 一本号の主な内容

- 巻頭言
- 研修・交流会活動
- 入居者の活動トピックス
- 入居企業紹介
- 新入居者紹介
- イベント案内

No.30 (2010.10)

## 「岡山県の産業振興とORIC」

岡山県産業労働部  
部長 三宅 昇



岡山県の産業は、昭和30年代から水島工業地帯を中心に発展を遂げてまいりました。

現在でも水島工業地帯は県製造品出荷額の5割近くを占め、岡山県産業の基幹としての地位にはありますが、現在の厳しい経済・雇用状況乗り越え、産業が活力に満ちた岡山を創造するためには、イノベーションによる新産業の育成や岡山ならではの魅力を生かした観光振興を図ることが重要です。

このため、岡山県では、本県経済を支える新たな産業基軸の構築に向けて、産学官連携の下、成長が期待される分野への事業展開や新技術・新製品開発、販路拡大等の促進、さらには戦略的な企業誘致により力強いものづくり産業の育成、集積を図るとともに、観光立県戦略に基づき、地域が主体となって取り組む周遊型、滞在型の新たな観光の魅力づくりを行っています。

また、今年は「あっ晴れ!おかやま国文祭」が10月30日から開催され、県外から多くの方が岡山を訪れることが予想されますので、これを機会に効果的な情報発信等を行ってまいります。

こうした中で、新技術や新しいアイデアなどを活

かしたベンチャー企業の発掘・育成の中核施設である岡山リサーチパークインキュベーションセンターは、ハード面では5千㎡を超える規模を誇り、充実した情報インフラを完備しており、またソフト面でも岡山県産業振興財団や岡山県工業技術センター等の支援機関に加え、常勤のインキュベーションマネージャーによるきめ細かな指導体制が整えられているなど、全国的にも有数のインキュベーション施設として、オープン以来、大きな役割を担ってきたところです。

幸い、これまでに発展的に卒業して県内に生産拠点を設けた企業、海外に進出した企業、海外の企業と業務提携している企業が現れるなど、次々と成果が上がっているところであり、県といたしましては、今後、インキュベート機能の一層の充実を図るとともに、センターと連携しながら優秀な起業家の入居を促進してまいりたいと考えております。

入居企業の皆様方には、優れたシーズを大きく育てられ、さらに飛躍されるようお祈りいたします。

関係の支援機関の皆様方におかれましては、県内産業の更なる活性化に向け、当センターに対する一層のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## ■ 平成22年7月度ORIC交流会及びセミナー

### ● 入居企業紹介

#### 「半導体センサによるpH測定を核とした事業展開」 (株) オートメジャーシステムズ



同社は岡山県産業振興財団が昨年開催したビジネスプランコンテストで最優秀賞を受賞した山田章氏が受賞内容での創業を決意し、最優秀賞受賞者の特典であるORICの使用料無料（最長3年間）を利用して設立した会社です。山田社長はサンプルが少量かつ短時間で測定可能などの、従来のpH測定法と異なる独自性と優位性を持つ半導体センサーによるpH測定法を開発しました。

ORIC入居後は販売用機種の開発を進めています。試作機は完成していますので試作機を使っの受託分析も同時に進めています。受託分析は売上収入だけでなく、顧客ニーズを知る良い機会と捉えているとの説明がありました。

なお、交流会当日は早朝よりの大雨で交通網が乱れた影響で、発表の開始に山田社長は間に合わず代わって社員の太田氏からの発表となりましたが、交流会の終了時には到着していた山田社長より参加者の皆様への挨拶がありました。

### ● ゲスト機関紹介

#### 「おかやま生体信号研究会の紹介」 岡山大学自然科学研究科

同研究会は生体信号関連の情報収集や共有活動、研究開発の高度化、産業の育成協力などを目的に昨年12月に設立されました。その活動状況なども含め同研究会会長の則次岡山大学大学院自然科学研究科長より紹介がありました。生体信号とは脳波や筋電などヒトの意思や状態を知ることのできる生体が発する信号のことです。筋電は筋肉が動くより早く計測されるように生体信号のセンサ・計測技術などが進歩すれば医療・福祉などの広い分野での応用が期待されています。例えば、生体信号によるロボット制御や居眠り運転防止装置などがあります。則次教授が開発した空気圧を使った人工筋肉“パワーアシストローブ”の写真による紹介もありました。生体信号の研究は政府が成長戦略として発表したライフイノベーションの中の高齢者・障害者の生活支援技術に該当することから成長分野と位置づけられていることでもあり、同研究会への積極的な参加も呼び掛けていました。



### ● ORICセミナー

#### 「政府の再生可能エネルギーの導入政策と環境関連産業の成長戦略について」 経済産業省 資源エネルギー庁 電力市場整備課



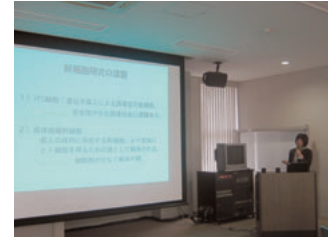
経済産業省電力市場整備課課長補佐の曳野潔様から、「再生可能エネルギー導入政策と環境関連産業の成長戦略について」と題してこれからの日本のエネルギー政策、特に再生可能エネルギーと環境をキーワードとしたお話を、分かりやすくご講演いただきました。日本は1990年比で2020年に炭酸ガス排出量を25%削減すると世界に約束しましたが、この6月18日の閣議決定では「2030年対1990年比で30%削減する」と微妙に現実的な数値に切り替えた話をはじめとして、種々の表話・裏話をさせていただき興味深く聞く事ができました。再生可能エネルギー導入に伴う様々な弊害や現実的制約などについても、地球温暖化に対する大きな貢献という一面的な評価とは別の次元での捉え方としてお話いただきました。平成21年度第2四半期の国内向け太陽電池出荷量は対前年同期比で約2.7倍になりましたがこれに伴う経済効果はまだ年間2,000億円足らずですが、2020年度には一兆円越えを目指しているとの話でした。再生可能エネルギー関連ビジネスが経済再生の大きな引き金になるよう岡山でも努力して欲しいとの期待表明もありました。

## ■ 平成22年8月度ORIC交流会及びセミナー

### ●入居企業紹介

#### 「イモリの再生現象から幹細胞産業化を目指す」 幹細胞研究所

小阪美津子氏より、同研究所の目指している幹細胞研究の方向と、i-PS細胞研究開発との差異などについて分かりやすく解説していただきました。「イモリの再生現象」の解明を通して、ヒトの再生医療への貢献を同研究所は企図しているとの事です。また、i-PS細胞の再生医療への応用には現在の技術では「遺伝子操作」が不可欠であり、これに伴う種々の危険性を払拭する事が難しいというのが同研究所の考え方の基本にあるようです。ともあれ再生医療への応用にはまだ多くの紆余曲折が控えており、同研究所ではこれらの研究開発の加速に資する「幹細胞の普遍的マーカーの開発と提供」や「解析するための諸ツールの整備と提供」をベースとした事業化も計画しているとの事でした。



### ●ゲスト機関紹介

#### 「おかやまロボット研究会の活動紹介とパワーアシストロボットの研究紹介」

##### 岡山大学大学院自然科学研究科



岡山大学大学院自然科学研究科助教の佐々木大輔先生から、おかやまロボット研究会の活動状況について詳細な説明がありました。同研究会は2007年1月に「各種知能機械システムの機構・制御および効率的運用形態について議論するため、また地域学術研究の推進と産業活性化を企図しての産学官連携組織として」発足し今日まで12回の研究会が行われてきました。また併せて先生の研究である「パワーアシストロボット」の研究事例紹介もありました。同ロボットの特徴は駆動力として「空気圧」を使用することにあります。こうする事でウエアラブルロボットの人間に対する違和感や負担感を少しでも和らげるというコンセプトです。高齢化に伴う「ウエアラブルロボット」の必要性と求められる機能や可能性について、動画を交えて分かりやすい説明がありました。今後益々医療・福祉分野を中心とした研究開発・実用化が進む事が期待されます。

### ●ORICセミナー

#### 「起業への道～夢をあきらめな、チャンスは平等に訪れる～」 IKOMAロボテック株式会社

生駒社長は、津山高専から長岡技術科学大学および大学院に進学されました。大学時代には、イベントのために1ヶ月半でオセロ・ロボットを開発したとのことで、その時に先生から「会社をつくれ」と言われたことが現在の原点になっています。その後松下電器産業に就職し、産業ロボットの開発チームで、企画や設計をしました。お父さんの死をきっかけとして、「人生に悔いは無いかを問いかけ」、その結果として、1998年に小さい頃からの夢であった創業を果たしたとのことです。しかし創業の年にはバブルの崩壊が始まり、その後3年間は自宅2階で設計し、玄関で組立を行うという、いわゆる「ガレージ起業」そのものの状況でした。ただ、口コミで徐々に販路が生まれ順調な成長が始まり、とうとう古巣である松下の仕事を受注するまでに成長しました。



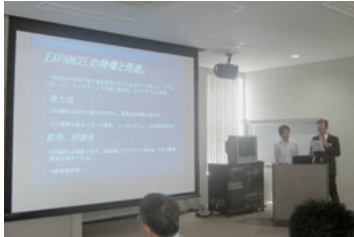
この会社の業務の中心は、ロボットの周辺機器の開発です。社長の松下時代の業務で、ロボットに係わるニーズを理解していたことが強みです。

8年間右肩上がりの順調な成長を続けていた同社ですが、リーマンショックでは、やはり大幅な売上減に直面します。しかし、その状況は、経営を安定させるためにどうするかを考えるきっかけとなり、環境・アグリ分野への進出を指向しました。また、活力ある会社を維持するため、事業計画を見直し、業績の見える化を行い、人事制度を改善して、社員格付けと給与を明確にリンクさせたりしました。そのような中で、アグリ事業では農業を使わない稲作作りを目指して、アイガモロボットの開発も行っています。生駒社長は、今会社経営について思うこととして、「チャンスは平等に訪れる。チャンスに気づき、そのチャンスを拾い上げることが重要だ」と考えているとのことです。

## ■ 平成22年9月度ORIC交流会及びセミナー

### ●入居企業紹介

#### 「炭酸カルシウム高機能化への取り組みについて」 三共精粉株式会社



三共精粉株式会社の狩野氏から同社の開発状況についての説明がありました。

炭酸カルシウムは塗料や一般建材等に使われている他、食品添加物としての用途もあるとのこと。同社の製品の1種である「表面処理重質炭酸カルシウム」は、炭酸カルシウムに有機薬剤をコーティングしており、熱硬化性樹脂用のフィラーなどに利用されています。さらに高度化したハイブリッドフィラーは、工業技術センターとの共同開発品で、耐衝撃性を高めているとのこと。工業技術センターとの共同開発歴は10年に及び、さらに各種の新機能をもった炭酸カルシウムの開発を継続しているとのことでした。

### ●ゲスト機関紹介

#### 「岡山市の中小企業支援策について」 岡山市経済局

岡山市経済局の長尾氏からは、岡山市の都市ビジョンや現状の課題などと共に岡山市が展開している各種の中小企業支援策の紹介がありました。

その中でも新規に策定された「次世代産業立地推進事業」による補助金は、ORICのような起業家育成施設で取り組んだ成果を生かした事業を卒業後に市内で行う場合、賃借した事務所の賃料の一部を最長24カ月（月額5万円を上限）に渡って補助するもので、ORIC入居者にとっても非常に嬉しい補助金です。

その他にも岡山市には、展示会への出展費用の補助や研究開発に係わる補助金など、使いやすい補助金がいくつもあることを紹介されました。



### ●ORICセミナー

#### 「自然エネルギーで雇用を生む」 備前グリーンエネルギー株式会社

岡山県備前市において、ESCO事業（省エネルギーの提案、施設の提供、維持・管理など包括的なサービスを行う事業のこと）や森林バイオマス事業を行う「備前グリーンエネルギー株式会社」で事業企画・実施を担当している井筒氏より自然エネルギーの産業としての現状と可能性及び同社の事業内容について説明がありました。

まず、世界のエネルギー企業が近年大きく伸びていることや大幅な雇用創出を期待されていること、一方で、日本の“いなか”では自然エネルギーが活用されていない現状を愛知県豊根村と岡山県を例に説明があり、バイオマス資源や太陽光などの自然エネルギーを地域資源として活用することで雇用を創出し持続可能な地域を実現できるとの提案がありました。

次に同社の事業コンテンツごとに説明がありましたが、家庭での自然エネルギーの利用では暖房用のストーブはペレットや薪の流通に問題があり採算が厳しいこと、コスト面では太陽熱温水器と太陽光発電の組み合わせが望ましいとの説明がありました。



同社が事業を展開していくうえで同社の理念が見えてこないと危惧する声から参加者からありましたが、自然エネルギーへの関心と県内ではユニークな同社の事業内容もあり、幅広い層が参加するセミナーとなりました。

## ■ 「オープンイノベーションビジネスマッチング in ORIC」

7月30日に、大阪ガス株式会社の商品開発ニーズを広く一般に公開して、県内外の中小企業、大学等から、それらのニーズに対応できる技術提案を募集するイベントを開催いたしました。これは、ORICが創業支援のみならず、広く県内の中小企業へのビジネス機会を提供するきっかけ作りを目指して行った行事です。

当日は、大阪ガス（株）のオープン・イノベーション室長である松本毅氏より、70件弱のニーズの紹介がありました。その中には、同社が今すぐにでも欲しいニーズ（即、採用になる可能性が高いニーズ）から中期的展望で募集している案件まで様々で、また技術分野もガス配管関連から太陽電池、燃料電池関の製品・関連部材まで、実に多様でした。

県内外の企業23社と10の産業支援機関・教育機関から総計50名弱の参加があり、交流サロンが一杯になる盛況でした。多くの参加者からは、ニーズの紹介が非常に具体的かつ詳細で、確度の高い提案が出来そうだと好評でした。

技術提案が採用されると、大阪ガス社への納入、共同開発などに発展する予定です。提出された提案は、今後大阪ガス（株）で審議され、1次選抜された提案については、提案企業と大阪ガス（株）の商談会を12月頃にORICで開催する予定です。

今回のマッチング会の前に東京で開催されたマッチング会には、ORICの入居企業1社が提案し、1次面談を通過して、2次の商談につながっています。

今後も、これに続く企業が出てくることを期待しています。



## ■ 第24回IT研究会 「起業してからの体験談と今後の事業戦略について」

平成22年9月28日（火）に、株式会社CODE54 代表取締役の後藤 誠氏にご講演いただきました。後藤社長は28歳の時に個人事業主から出発し、6年経った今では社員数6名と立派な事務所を構えるまで成長されました。従来のシステム開発・Webデザイン・音源製作事業に加え、現在はモバイルインターネット（iPhone、Android、iPad）の開発に力を注いでおられます。外部環境の変化に対する素早い対応は、最新情報の収集と後藤社長の決断力によるものです。その最新情報は、全国レベルはツイッター・専門サイトから、県内は地方紙・経済誌から、足元は自分の目と足の3本柱で収集されているそうです。`CODE54`というブランドを売り込んでいく戦略も成功し、後藤社長の目標の一つである「ファクトリーからメーカーへ」は必ず実現されると確信しました。



### 入居企業の活動・トピックス

## ■ しんきん合同ビジネス交流会

おかやま信用金庫を中心とする県内8信用金庫などにより組織された「しんきん合同ビジネス交流会実行委員会」主催のビジネス交流会・商談会が平成22年9月16日（木）にコンベックス岡山の大・中・小展示場を会場に開催されました。

参加企業は昨年度より14社多い452社、来場者は昨年度より200人多い3,200人と盛況でしたが、特に参加企業の個別商談件数は昨年度より126件多い761件と増加しておりこの交流会を積極的に活用する県内企業が多いようです。ORICからも6社が参加し積極的にこの交流会を活用していました。



# 免疫分析研究センター株式会社



取締役社長 立藤 智基

連絡先 〒701-1221 岡山市北区芳賀5303 ORIC 213号室

TEL/FAX 086-286-9333

U R L <http://www.menekibunseki.com/>

E-Mail [info@menekibunseki.com](mailto:info@menekibunseki.com)

## 事業内容

- ◇食品素材の免疫機能測定受託  
～素材の評価・探索～
- ◇機能性食品を評価するヒト試験の受託  
～主に免疫機能に関する評価～
- ◇免疫に関わる機能性食品の開発  
～蓄積データ、ノウハウを基に本当に効果のある機能性食品を開発～

## 特 徴

当社では、岡山市近郊の400名を超える商品モニター試験ボランティア会員にご協力いただき、商品の試用、健康状態のアンケート調査、健康診断の実施などを通してヒト臨床試験を受託しています。主に、NK細胞活性などの免疫機能評価を中心に、ご依頼の企業からの要望に応じて様々な項目について評価を行います。これまでに食品・製薬メーカー

など延べ30社以上から食品評価試験、ヒト臨床試験の受託実績があり、当社での試験結果は、学会や学術誌等で発表されています。また、岡山大学や岡山県生物科学研究所との共同研究により、付加価値のある新たな素材の探究も進めています。

## 今後の展開

これまでの受託試験および自社研究等で得られた蓄積データやノウハウを活かし、科学的根拠に基づいた当社独自の機能性食品の開発に着手しています。また、ボランティア会員の免疫能測定結果とアンケート調査から、免疫能とストレスや睡眠、食習慣などの生活習慣との関連を明らかにしました。これらのデータを基に、新たな免疫機能判定システムの開発にも取り組んでいます。今後は、従来の受託試験と予防医学的な健康サービスを伴う機能性食品の販売を事業の柱として構築することを目指しています。

## 新入居者紹介

2010年6月に開催された第28回入居審査会により下記4社が入居しました

入居企業名	事業概要	所在地	分野
(株)イート	・鶏卵抗体の大量製造方法の開発。	岡山市	バイオ
(株)竹田技研	・画像解析に基づく欠陥検査機の製造、販売。	岡山市	機 械
(株)マテリアルデザイン ファクトリー	・高機能特殊フィルムの量産技術開発、製造、販売。	大阪市	化 学
(株)リバティーゲート	・自動車整備業向け業務支援パッケージソフトの開発、販売。	岡山市	I T

■ 岡山大学「知恵の見本市」【開催：11月5日（金）】

岡山大学創立50周年記念館にて 参加無料

知恵の見本市2010 開催テーマ

「日本の強みを活かす成長分野～グリーン・イノベーションとライフ・イノベーション」

特別講演 マツダ株式会社 車両開発本部（前研究所長） 主幹 松岡孟氏

「マツダが考える自動車と技術」

産学官コーディネーターによる技術相談会、研究施設見学会も企画されている。

■ 岡山理科大学「OUSフォーラム2010」【開催：11月24日【水】】

岡山プラザホテルにて 参加無料

（前半の部）講演会

・特別記念講演 埼玉県産業技術総合センター長（元（株）ホンダ技術研究所専務）荒木純一氏

「ホンダジェットの開発経緯」

・産学官連携活動紹介 グリーン元素科学プロジェクト代表・岡山理科大学化学科教授 森重國光氏

（後半の部）ポスターセッション「岡山理科大学研究シーズ約70の紹介」

# 入居者募集中!!

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

■ 施設使用料・空き室状況

(2010年10月現在)

施設区分	面積	使用料の月額 (減額後の使用料※)	部屋数	空き室数
研究室小	約 25㎡	45,000 円 (22,500 円)	22	6
研究室大	約 50㎡	88,000 円 (44,000 円)	30	10
試作開発室	約 100㎡	175,000 円 (87,500 円)	6	4
創業準備室	5㎡/ブース	5,000 円	6ブース	5ブース



※創業5年未満の会社は、入居後3年間は半額になる制度があります。

■ 次回募集

原則として3ヶ月ごとに入居審査会を開催しています。

次回は11月末までに事業計画書を提出された方を対象に、12月中に開催の予定です。

（創業準備室の募集は随時受付けています。）

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.oric.ne.jp>